

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中等 2		学校名	並木中等教育学校						課程	全日制		学校長名		柴崎 孝浩			
教頭名	副校長 小野 威人			教頭 富永 正弘				教頭 細井 ひろみ			事務（室）長名		渡邊 信尚					
教職員数	教諭	6 1	養護教諭	2	常勤講師	6	非常勤講師	9	実習教諭，実習講師，実習助手		1	事務職員	6	技術職員等	6	計	9 1	
生徒数	学科			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合 計		合 計 クラス数
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科			80	80	80	80	80	80	79	78	77	79	77	74	473	471	24

2 目指す学校像

- 1 体験・経験を重視した学習活動を通して広く人間教育を行う学校
- 2 筑波研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学、研究機関、保護者、卒業生と連携して科学教育を行う学校
- 3 外国からの研究者・留学生、インターナショナルスクールとの交流や海外語学研修などを通して、国際教育を行う学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	協働と連携を通して磨いた探究的・創造力を生かし、次代を牽引するグローバル・リーダーの育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	中高一貫校の蓄積と実績を基に、難関大学や医学部等、多様な志望に対応できる、多彩なカリキュラムを通じた進路実現
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	様々な分野に関心をもって他者と関わる中で、自分の見識をより広げ深めていこうとする探究心・向学心のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	授業力向上のため、授業ちょっと見週間等の教員間の授業互見の機会を継続する。延べ参観数 1,000 回を目標に、充実させていきたい。今年度も公開研究授業を実施し、外部の方々と積極的に協議を行うことで授業力向上を推進したい。並木中等内での授業改善のみならず、県内・県外への A L 授業や I C T 活用授業、課題探究の取り組みや T O 学習、クロスカリキュラム、STEAM 型授業等を広める、先進校的役割を果たすことが期待されている。	・校務の要職を担っている教員が入れ替わり始めているので、その中で、並木中等の特色ある教育活動をどのように維持、発展させるかが大きな課題である。 ・医学コース設置、他の公立中高一貫校の増設に対して、並木ブランドを確立することができるかが課題である。
進路指導	進路実績としては教員・生徒の努力により、十分に成果を上げているが、客観的に見て、旧帝大・筑波大レベルを目指す生徒の層が薄く、細く長い学力帯の学校となっている。	・教職員が授業の質の向上に努めることで、生徒の授業意欲を高め、十分な学力を持った生徒の層を厚くする必要がある。
生徒指導	上級生が下級生の模範となり、また指導助言が出来るよう投げかけてきた。教員による毎日の登下校・交通安全指導を行うことにより、基本的生活習慣（自律的な生活習慣，社会的マナー）の育成や交通安全意識の啓発及び徹底を図ってきた。 また、生徒個々の悩みや不安に応じる個人面談、S C との協力連携も含め教育相談体制の確立と定期相談の実施に努めてきた。	・主体的・自律的な基本的生活習慣の育成 ・日常生活の諸問題を生徒が自ら解決する取組の充実 ・生徒、保護者の声を真剣に受け止め、学校・S C と家庭が連携協力して問題を解決する体制づくり ・登校しぶりや心の悩みを抱える生徒への個に応じた支援の充実、外部組織との連携
特別活動	生徒会活動、学校行事に積極的に参加する態度を育成している。3 大行事と称される文化祭（かえで祭）・ウォークラリー・スポーツデイについては、実行委員会が組織され、異学年構成による自治的な運営を行っている。 部活動の加入率は約 84% であり、昨年度から若干減少している。 年次ごとにキャリア教育を実施していたが、学習内容を次年度につなげる年次横断的な取り組みはできていなかった。	・生徒主体の活動推進による、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成 ・6 年間の学校行事の体系化 ・学校教育の一環として教育課程との連携を図る部活動運営の工夫改善 ・キャリアパスポート事業の発足に合わせて、全年次統一されたデータでの保存を実施し、キャリア教育の連続性を高めていきたい。
働き方改革	教材研究、部活指導に熱心な教員が多く、勤務時間超過の職員がいる。業務の見直しが必要である。	・業務量の適切な管理 ・教員に対する個別指導 ・部活指導の分担の明確化 ・部活動指導員の活用、地域移行の推進

5 中期的目標

不確実な時代においてもリーダー性を発揮できるイノベーション人材を育成する。そのために、協働的な学びを重視した探究型カリキュラムを開発し、学習の質の向上を目指す。

＜目 標＞

- 1 建学の精神・教育理念をもとに、生徒に科学的素養や国際感覚、高い学力を身につけさせるとともに、「人間力」を備えた次世代を担うグローバル・リーダーとして育成する。
- 2 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校として、本校の教育の柱の一つの科学教育を推進しつつ、グローバル化社会が求める新しい教育を追求・実践し、全国に誇れる県立中等教育学校を目指す。
- 3 キャリア教育の視点のもと、全ての教育活動を展開し、進学指導を一層充実させる。高い志の実現、海外の大学も視野に入れた生徒の進路実現を目指す。
- 4 教職員の健康及び福祉の確保を図るため、業務量の管理を適切に行い、学校の教育水準を維持向上させる。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 新時代に対応した学習の見直し（授業改善）	○協働的な学びを取り入れた授業を実施する。 ・イノベーション力を強化するための弁証法的対話を授業に導入する。 ・学習指導要領に即した観点別評価の在り方を確立する。 ○基礎基本を活用し、思考・判断・表現を重視した学習を展開する。 ○「生徒による授業評価（授業満足度）」肯定的評価 80%以上
2 志高く、進路実現に向かう生徒の育成 （キャリア教育）	○体験活動を充実し、6年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。 ○キャリアカウンセリングを実施し、生徒の意思を汲んだ相談を実施する。
3 SSH事業第3期目のさらなる充実 （特色ある教育活動）	○「理数探究」を中心としたカリキュラム開発を行う。 ○地域、研究所、保護者、卒業生と連携した探究力・論理力の育成を図る。
4 6年間を見通した校内体制の確立 （教育活動の体系化）	○6年間の教育活動の体系化を図り、内容を精選する。 ○カリキュラム・マネジメントにより教育活動を精選し、校内体制を確立する。 ○医学コースカリキュラムの検証を行うとともに課題をまとめる。
5 業務内容の見直し（働き方改革）	○すべての教職員の超過勤務時間を1箇月45時間 年間360時間以内とする。 ○業務の精選を図ると共に会議の持ち方を工夫する。